

創立60周年をむかえて

当社は、1953年5月2日に、わが国初の民間気象予報会社として創立されました。その後、環境科学の総合コンサルタントを目指して業務範囲を拡大し、2006年には日本建設コンサルタントとの合併を経て、「社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント」として歩んでまいりました。ここでは、創業当時をご存知の方に歴史を振り返っていただきました。

いであ(株)との出会い

昭和39年、運輸省(現国土交通省)の小名浜港工事事務所に所長として赴任して間もなく、トウジョウ・ウェザー・サービス・センターの東条



社長が来所されました。何でも戦後の民間気象予報業務許可第1号の会社であり、小名浜港の波浪観測データを提供してほしいとの話で、承諾したついでに観測データの整理を依頼しました。当時、防波堤工事では1サイクルの作業に3~4日間の連続した嵐の日を要していました。嵐の状態把握が難しく手探りのような状態だったため、年間にわずか120m程度しか工事が進みませんでした。

そこで東条社長に嵐の状態を予報する“波浪予報”について相談し、予報担当社員を現場に張り付けて1カ月・1週間・3日の3点セットの予報が始まりました。予報をもとに工事工程計画を組んだところ、作業の迅速化の効果とも相まってそれまでの約10倍の工事スピードを達成して関係者を驚かし、防波堤工事における技術革新であるといわれました。後日、日本港湾協会から技術賞を頂き、副賞の金一封は祝杯の酒代の一部に化けました。

昭和47年には、北海道苫小牧市勇払原野の大規模工業基地建設における臨海部の埋立工事の環境アセスメントを新日本気象海洋(株)に発注しました(新日本気象海洋(株)にとっては埋立アセス第1号)。

近傍の工事では既に他社の波浪予報を利用していましたが、難工事が予想されたことから、再び新日本気象海洋(株)に波浪予報をお願い(小名浜港での経験から予報担当者が現場で現場作業員と密接な連携をとりながら予報を進める必要性を痛感していたためあえて発注)、工事を進め成功裡に埋立を完成しました。

千駄ヶ谷の小さな社屋から出発して今や全国に拠点を張りめぐらし、さらに東南アジアや中国に進出しているいであ(株)の急速な発展を見るにつけ、うたた感慨に堪えないところであります。

吉村 芳男

入社頃の思い出

入社当時は文京区駒込神明町に本社があり、仕事は天気図を作ることでした(初任給は12,900円)。

朝3時に起床し天気図用地図に

天気記号を記入しておき、後から起きてきた先輩社員が等圧線を引き天気図を作る(早朝手当50円、先輩500円)、極めて単純な作業でありました。

昭和39年、白竜号(石油掘削船)に乗り海底油田作業向け予報サービスに従事していましたが、その時、あの新潟地震(震度5、M7.5、最大津波4m)に遭遇しました。1週間後に下船し新潟気象台に行く途中に目のあたりにしたものは、液化化現象により大きく傾いた県営住宅、大きな被害を受けた橋梁であり、地震の恐ろしさに度肝を抜かれました。

昭和41年、電源開発(株)の委託を受け九頭竜川の積雪調査に参加しました。未経験の私は不安だらけでしたが、現地でも徹底した指導を受け調査に向かいました。1日目、2日目は順調でしたが、3日目最難関と言われた大日岳(1,700m)の調査時、パーティの1人が雪庇から落下しました。しかし幸いすぐに元気な姿を見せてくれて一安心、このような、はらはらどきどきの調査でありましたが、何とか終了しました。

この他、昭和43年には神奈川県企業庁の委託で富士山5合目での人工降雨実験など、数々の調査を実施しました。

昭和41年、本社は渋谷区千駄ヶ谷に移転しましたが、この頃の会社は大変な時期でした。独身者は何とかやりくりしましたが、妻帯者は大変だったと思います。

昭和54年、二子玉川に本社を移転した頃からは、よく飲み、楽しくて面白い会社でありました。

進藤 吉三郎



回想

会社創業60周年、誠におめでとうございます。

私は昭和41年5月に(株)トウジョウ・ウェザー・サービス・センターへ途中入社し、



本社(渋谷区千駄ヶ谷)勤めの後、八戸事業所で勤務しておりました。昭和43年9月、新会社への組織変更により翌年八戸営業所が閉鎖されることになり、本社(千代田区麴町)へ戻ってきました。その際、田畑氏(現会長)が本業の傍らにしていた事務や経理関係の仕事を引き継ぐことになりました。

当時の会社は気象業務が大半でしたが、第1期決算(S43)の売上高は約4千2百万円、第2期(S44)中に社名を新日本気象海洋(株)に変更し、売上高は8千7百万円と倍増しました。第5期(S47)には当社初の自社ビルとなる第一技術研究所を目黒区に開設し、売上高は5億円近くに達しました。第7期(S49)には業務拡大に伴い本社を移転し売上高は10億円へ、第12期(S54)には本社を世田谷区玉川へ新築移転し売上高は27億円と続伸しました。第18期(S60)には大阪支店を新築移転し、株式の店頭公開(現JASDAQ)を成し遂げました。

その後も順調に前進し、第25期(H4)には環境創造研究所を静岡県焼津市に開設し、売上高は約73億円を突破、第28期(H7)には横浜市都筑区に環境情報研究所(現国土環境研究所)、第29期(H8)には名古屋支店を開設しました。

このように素晴らしい会社で大発展したのは、田畑会長の卓抜した識見と強力なリーダーシップ、社員の皆様の努力によるものであります。また、時代の流れに乗り遅れず、先見の明により今日の素晴らしい結果がもたらされていることに敬意を表します。

今後ともますます発展させていただきますようお願いいたします。

前田 好孝



当社沿革

- 1953 (S28) (株)トウジョウ・ウェザー・サービス・センター創業(民間初の気象予報会社)
- 1969 (S44) 新日本気象海洋(株)に社名変更
- 1971 (S46) 大阪支店開設
- 1972 (S47) 第一技術研究所開設(目黒区上目黒)
- 1979 (S54) 本社ビル開設(世田谷区玉川)
- 1985 (S60) 株式店頭公開(現JASDAQ)
- 1992 (H4) 環境創造研究所開設(静岡県)
- 1995 (H7) 環境情報研究所(現国土環境研究所)開設(横浜市)
- 1996 (H8) 名古屋支店新社屋開設
- 1998 (H10) 九州支店開設、沖縄支店開設
- 2000 (H12) 本社新社屋開設(世田谷区駒沢)、東北支店開設
- 2001 (H13) 国土環境(株)に社名変更
- 2002 (H14) 沖縄支店新社屋開設
- 2003 (H15) 中国北京事務所開設
- 2004 (H16) 九州支店新社屋開設
- 2006 (H18) 国土環境(株)及び日本建設コンサルタント(株)が合併し、いであ(株)に社名変更、札幌支店開設、中国支店開設
- 2008 (H20) 大阪支社新社屋開設、沖縄支社開設、四国支店開設
- 2012 (H24) 福島支店開設